# 直野灣市民大会

普天間飛行場へのオスプレイ配備等に反対し、固定化を許さず早期閉鎖・返還を求める宜野湾市民大会



(主 催) 普天間飛行場のオスプレイ配備等に反対し、固定化を許さず早期閉鎖・返還を求める 宜野湾市民大会実行委員会

【共 催】宜野湾市 宜野湾市議会 宜野湾市教育委員会

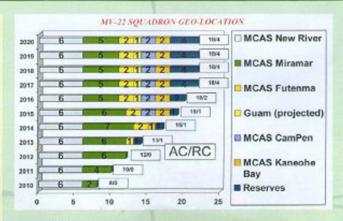
【賛同団体】宜野湾市議会、宜野湾市教育委員会、市自治会長会及び各自治会(23区)、市老人クラブ連合会、市婦人連合会、市青年連合会、市女性団体連絡協議会、宜野湾市国際交流協会、沖縄県農業協同組合宜野湾支店、社団法人宜野湾市観光振興協会、NPO法人沖縄コンベンションシティー会、宜野湾地区交通安全協会、宜野湾市民生委員児童委員連絡協議会、宜野湾市赤十字奉仕団、宜野湾市社会福祉協議会、特定非営利法人宜野湾市ひまわり共同作業所、特定非営利活動法人 PAIおきなわ、宜野湾市身体障がい者福祉協会、宜野湾市手をつなぐ親の会、社会福祉法人蒼生の会、障がい福祉サービス事業所はごろも、宜野湾市母子寡婦福祉会、宜野湾市食生活改善推進協議会、宜野湾市PTA連合会、宜野湾市子ども会育成者連絡協議会、宜野湾市体育協会、宜野湾市スポーツ少年団、宜野湾普天間ライオンズクラブ、まちづくり★元気な市民会議、宜野湾市青少年健全育成協議会、沖縄国際大学、特定非営利法人沖縄県自立生活センターイルカ、支援センター あかとうんち、宜野湾市認可保育園園長会、宜野湾電友会、宜野湾市管工事協同組合、宜野湾市建築設計事務所会、宜野湾市建設業者会、はごろも緑花会、普天間米軍基地から爆音をなくす訴訟団、宜野湾市社交飲食業協会、宜野湾市シルバー人材センター(全42団体、順不同)



# "MV-22オスプレイの沖縄配備反対"

2010年9月に米海兵隊により公表された「海兵隊航空計画」(FY2011 Marine Aviation Plan)によると、老朽化しているCH-46Eの後継機はMV-22(オスプレイ)とされており、現在普天間飛行場へ配備されている第1海兵航空団第265中へリ中隊と第262中へリ中隊も、2013米会計年度(2012年10月)からオスプレイ中隊に交替することが記述されています。

交替される部隊はVMM-561オスプレイ中隊と VMM-562オスプレイ中隊であり、順次、第1海兵航空団 に配備される計画となっています。2010年12月には、カリ フォルニア州ミラマー基地でVMM-561オスプレイ中隊の 発足式が行われ、「18ヶ月後には配備の態勢が整う」(同 中隊司令官)としています。また2011年1月には、アリゾナ



†2013米会計年度(2012年10月)から普天間飛行場に MV-22オスプレイ部隊が配備されるとしている。 2011海兵隊航空計画(2-7)

州ユマ近くの砂漠での訓練を行いました。オスプレイは開発段階から頻繁に墜落事故を起こし、最近では2010年4月には、アフガニスタンで空軍のCV-22オスプレイが墜落し4人が死亡する事故も発生しています。もはやオスプレイが 欠陥機であることは明白です。よって、更なる墜落の危険性や騒音被害の増加が懸念されるオスプレイ配備について は強く反対し、日米両政府に対し、配備をやめるよう求めてまいります。

## 本格的運用を危ぶむ声も

オスプレイは開発段階からその安全性・実用化に対し疑念が絶えない機体となっており、導入決定から25年以上経過した現在でも、2009年6月の米国政府監査院(GAO)報告書、2011年1月米国防総省・実用試験評価本部報告書などで、運用能力の問題点が指摘されており、数々の死亡事故も起こしております。

## オスプレイとは?

※参考:ベル/ボーイング社のホームページ

V-22オスプレイは、史上初のティルトローター技術を取り入れた共同多目的軍用機。ヘリコプターのように垂直離着陸とホバリングが可能で、巡航中はターボ・プロップ機同様の高速、高々度、長航続の飛行ができる。〔データ〕回転翼直径11.6m、胴体全長17.48m、全幅25.78m、全高(ナセル垂直)6.74m、自重15,177kg、総重量(垂直離着陸時)23,859kg、総重量(滑走離陸時)25,855kg、最大速度463km/h、最良上昇率975m/m、実用上昇限度7,620m、行動半径(無給油・24人搭載)722km、乗員4/兵員24。

#### 開発段階から繰り返されるオスプレイの主な墜落事故 1989年3月19日 初飛行 1991年6月 墜落大破、乗員2名軽傷 1992年7月 ポトマックリバーに墜落、7人の乗員が死亡 米海兵隊向け量産機納入開始 1999年5月 2000年4月 兵員輸送の訓練時に墜落、19人死亡 2000年12月 夜間飛行訓練中に墜落、4人死亡 2000年にはこのほかに2件、合計で4件の墜落事故を起こしたため、事故調査で一時飛行停止。 2002年5月 飛行再開 2010年4月 アフガニスタン実戦配備の空軍CV-22が墜落、4人死亡 2012年4月 モロッコにて訓練中に墜落、米海兵隊員4名が死傷

## 指摘されているオスプレイ配備の危険性と問題点

## 騒音の激化

宜野湾市と沖縄県の連名で出したオスプレイ配備に対する質問書への防衛省の回答によると、オスプレイに換装される予定であるCH-46とオスプレイの騒音レベルの比較によれば、巡航時こそCH-46と比較し騒音は小さいものの、着陸時・ホバリング時・エンジンテスト時の騒音についてほとんどの場合でオスプレイがCH-46を上回る騒音が測定されています。

タッチアンドゴー訓練やホバリング訓練が頻繁に 行われる現状を考えると、市民はさらなる騒音にさらさ れることが考えられます。

## オートローテーション機能の欠如

通常、回転関機にはエンジンが停止しても機体が下降する際の掲力を利用し、ゆっくりと下降できる機能 (オートローテーション機能)がありますが、オスプレイは比較的小さプロペラで重い機体を支える必要があるためこの機能の欠如が指摘されています。

製造元のボーイング社がエンジン停止時のヘリ モード緊急着陸の可能性について「オートローテー ション(自動回転)に頼らない」と否定し、固定翼モード での滑空着陸を選択するとガイドブックに明記。オス プレイ配備により、墜落の危険性のさらなる増加が懸 念されます。



2011年6月13日に行われた、 オスプレイ配備に反対する緊急座り込み行動の様子

## 環境影響評価

米軍は自国内で大規模な部隊改編 などを行う場合は、米国法に基づく環境影響評価(EIS)で厳格な調査が義 務付けられていますが、国外において は大統領令でEISに近い「環境影響 評価」を当事国と共同で行うか、より 簡易な米軍独自の「環境審査」を実施 すると定めておりますが、義務付けて はありません。今回の普天間飛行場へ のオスプレイ配備に当たり簡易な米 軍独自の「環境審査」を行っています。

住宅地に隣接し、世界一危険な飛 行場と称される普天間飛行場へ、危 険性が指摘されているオスプレイを 配備するための事前調査としては不 十分であると考えられます。

## MV-22オスプレイ配備に関するこれまでの主な経緯

平成23年

5月30日 県内2紙にてオスプレイ配備伝達へとの報道

6月 2日 市内主要団体によるMV-22オスプレイ配備に対する緊急協議を行う。

6月 7日 米国防省による発表

「現行の海兵隊航空計画によれば、MV-22オスプレイは、2012年の遅くから第

3海兵隊機動展開部隊のCH-46から換装されることになるであろう。」

6月13日 「米軍普天間飛行場へのMV-22オスプレイ

配備に反対する宜野湾市民緊急座り込み抗

議行動」

(参加者数:266人)



6月22日 市議会

「米軍普天間飛行場へのMV-22オスプレイ配備に反対する抗議決議・意見書」可決

6月24日 沖縄県知事・宜野湾市長連名で、「MV-22オスプレイ配備について」29項目の質問書

を防衛大臣あてに提出

(9月1日、12月20日回答受理)

平成24年

3月13日 市内主要団体でオスプレイ配備に反対する今後の取り組みについて意見交換会を行う

4月 6日 市内主要団体による第1回市民大会準備委員会を開催

4月11日 モロッコにて訓練中のオスプレイが墜落し、米海兵隊員4名が死傷

5月14日 市内主要団体による第2回市民大会準備委員会を開催

5月18日 市内各種団体による宜野湾市民大会実行委員会結成総会を開催

6月17日に市民大会を行うことを確認

6月13日 市民大会実行委員会幹事会を開催

